

御中

防水工事

施 工 要 領 書
タケシールPC eco CR-3T工法

I. 総則

- 1) 本施工要領書は、工事におけるポリマーセメント系塗膜防水工
事に適用する。
- 2) 防水工事施工にあたっては、本要領書に従うものとし、当該記載事項に関して変更が生じた場合、又は記載なき事項については、工事係員又は監督者と協議の上、決定する。

II. 工事概要

1. 工事名称 _____
2. 所在地 _____
3. 元請け業者 _____
4. 施工業者 _____
5. 工事内容 タケシールPC eco CR-3T工法

III. 施工業者組織

会社名
所在地
TEL
FAX
代表者
担当者

IV. 材料メーカー会社組織

会社名 竹林化学工業株式会社
(本社・工場)

〒577-0836 大阪府東大阪市渋川町3丁目1-43
TEL 06-6721-6165
FAX 06-6720-7308

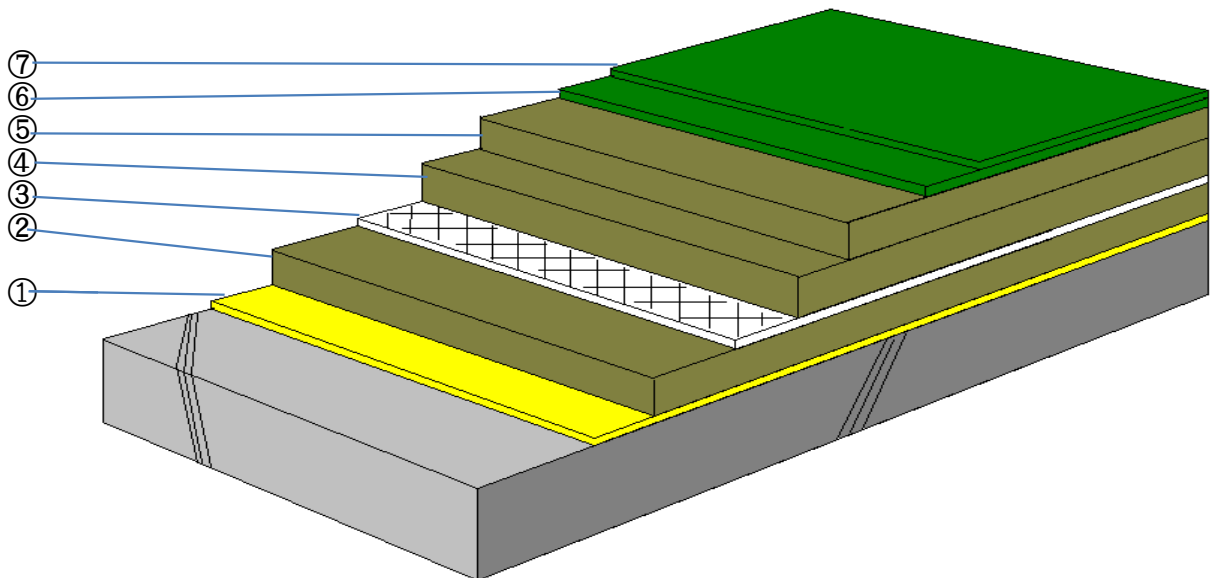
V. 防水施工範囲

防水施工箇所	防水仕様	施工数量

VI. 防水仕様

	工程	使用材料	配合 (kg)	塗布量 (kg/m ²)	方法	作業間隔
①	プライマー塗布	タケシールPC ecoプライマー		0.2	ローラー、刷毛等にて塗布	約30分～2時間
②	下塗り塗布	タケシールPC eco主剤 タケシールPC eco混和材 水	9 6 1～2	1.1	ローラー、刷毛、コテ等にて塗布	直ちに
③	補強布貼り	補強クロス			下塗り材塗布後、直ちに補強クロスを貼り付け	約3時間～6時間
④	中塗り塗布	タケシールPC eco主剤 タケシールPC eco混和材 水	9 6 1～2	1.1	ローラー、刷毛、コテ等にて塗布	約3時間～6時間
⑤	上塗り塗布	タケシールPC eco主剤 タケシールPC eco混和材 水	9 6 1～2	1	ローラー、刷毛、コテ等にて塗布	約3時間～6時間
⑥	上塗り	タケトップ		0.75	ローラー、刷毛等にて塗布	約2～3時間
⑦	上塗り	タケトップ		0.75	ローラー、刷毛等にて塗布	約24時間

※平場と立上りは、同一工法となります。



VII. 使用材料明細

使用材料	品名	規格	製造業者
プライマー	タケシールPC ecoプライマー	15kg・4kg	竹林化学工業(株)
防水材	タケシールPC eco主剤	18kg・9kg	竹林化学工業(株)
	タケシールPC eco混和材	12kg・6kg	竹林化学工業(株)
補強布	補強クロス 1m幅	50m	竹林化学工業(株)
トップコート	タケトップ	20kg・5kg	竹林化学工業(株)

Ⅷ. タケシールPC eco CR-3T工法施工要領

1. 施工着手前の確認事項

【防水工事までに下記の事項につき確認】

- 1) 平滑で、亀裂・浮き・目違い等のないこと。
- 2) 水切り、打ち継ぎ目地などが仕上がっていること。
- 3) 水勾配は、下地スラブでとる。
- 4) レイタンス、塵埃・油脂類・汚れ・錆等がないこと。
- 5) ルーフドレン、パイプ等が堅固に取り付けられていること。
- 6) 欠損、脆弱化部分がないこと。
- 7) 出隅、入り隅は通りがよいこと。

2. 標準施工仕様

2-1 【防水施工手順】

- 1) 下地処理
- 2) プライマーの塗布
- 3) 下塗り材の塗布
- 4) 補強布の貼り付け
- 5) 中塗り材の塗布
- 6) 上塗り材の塗布
- 7) トップコート1回目塗布
- 8) トップコート2回目塗布

2-1-1 下地処理

- 1) ゴミ・砂・油脂分等の付着物は十分に除去し、清掃する。
- 2) 鉄筋・鉄線等の突起露出部分はサンダー等で除去し、平滑な面とする。
- 3) レイタンス及び、金属部分の錆はサンダー等で除去する。
- 4) 浮き水はウエス等で拭き取る。
- 5) クラックは状況に応じVカットし、シーリング材にて充填補修を行い、補強クロスによる塗膜補強を行う。
- 6) 役物まわりで塗膜補強を要する部分は、補強クロス、堅練り材等で補強する。

2-2-2 プライマーの塗布

- 1) 使用する前に、缶を逆さにし内容物が均一な状態となるようよく振ります。
- 2) タケシールPC ecoプライマーを原液でローラー、刷毛等を使用し塗布する。
特に役物まわりは念入りに、場合によっては2～3回塗布する。
- 3) 作業間隔は、夏季(25℃)で、約30分、冬季(10℃)で、約1～2時間を目安とするが、施工環境や気象条件にて変化するので、歩行可能を確認の上、次の工程に進む。

塗布量	0.2kg/m ²
作業間隔	30分～2時間

2-2-3 下塗り材の塗布

- 1) タケシールPC eco主剤9kgに対し、水を1～2kg加え十分に攪拌する。
- 2) 主剤、水を攪拌しながら少量ずつタケシールPC eco混和材6kgを加え、ダマが出来ないように、約3～5分程度十分に攪拌し、塗布液を作成する。
- 3) 作成した塗布液をローラー又は、ラスタ刷毛、左官刷毛等にて均一に塗布する。

塗布量	1.1kg/m ²
作業間隔	直ちに次の工程へ

・施工は、出隅・入り隅・ドレン・配管周りやその他役物周りから塗布し、立上り、平場部へと勧進める。

2-2-4 補強クロス貼り付け

- 1) 補強クロスを貼り付け面寸法に合わせてカットしておきます。
 - 2) 下塗り材塗布後、直ちに補強クロスをしワよらない様に貼り付けます。
- | | | |
|------|----|------------------|
| 作業間隔 | 夏季 | 約3時間(気温25℃として) |
| | 冬季 | 約4~6時間(気温10℃として) |

2-2-5 中塗り材の塗布

- 1) タケシールPC eco主剤9kgに対し、水を1~2kg加え十分に攪拌する。
- 2) 主剤、水を攪拌しながら少量ずつタケシールPC eco混和材6kgを加え、ダマが出来ないように、約3~5分程度十分に攪拌し、塗布液を作成する。
- 3) 作成した塗布液を補強クロスを貼り付け後、直ちにローラー又は、ラスター刷毛、左官刷毛等にて補強クロスにすり込みピンホール穴ができないように塗布します。

塗布量	1.1kg/m ²	
作業間隔	夏季	約3時間(気温25℃として)
	冬季	約4~6時間(気温10℃として)

・施工は、出隅・入り隅・ドレン・配管周りやその他役物周りから塗布し、立上り、平場部へと勧進める。

2-2-6 上塗り材の塗布

- 1) タケシールPC eco主剤9kgに対し、水を1~2kg加え十分に攪拌する。
- 2) 主剤、水を攪拌しながら少量ずつタケシールPC eco混和材6kgを加え、ダマが出来ないように、約3~5分程度十分に攪拌し、塗布液を作成する。
- 3) 作成した塗布液を補強クロスを貼り付け後、直ちにローラー又は、ラスター刷毛、左官刷毛等にて補強クロスにすり込みピンホール穴ができないように塗布します。

塗布量	1.0kg/m ²	
作業間隔	夏季	約3時間(気温25℃として)
	冬季	約4~6時間(気温10℃として)

・施工は、出隅・入り隅・ドレン・配管周りやその他役物周りから塗布し、立上り、平場部へと勧進める。

2-2-7 トップコート1回目の塗布

- 1) 使用する前に、内容物が均一な状態となるよう機械攪拌します。
- 2) タケトップをローラー、ラスター刷毛等を使用し塗布する。

塗布量	0.75kg/m ²	
作業間隔	夏季	約2~3時間(気温20℃として)
	冬季	約3~5時間(気温10℃として)

・希釈は清水にて2%(重量比)以内にてお願いします。
 ・施工は、出隅・入り隅・ドレン・配管周りやその他役物周りから塗布し、立上り、平場部へと勧進める。

2-2-8 トップコート2回目の塗布

- 1) 使用する前に、内容物が均一な状態となるよう機械攪拌します。
- 2) タケトップをローラー、ラスター刷毛等を使用し塗布する。

塗布量	0.75kg/m ²	
作業間隔	夏季	約2~3時間(気温20℃として)
	冬季	約3~5時間(気温10℃として)

・希釈は清水にて2%(重量比)以内にてお願いします。
 ・施工は、出隅・入り隅・ドレン・配管周りやその他役物周りから塗布し、立上り、平場部へと勧進める。

IX. 検査

1. 工事中の検査

①施工者は、下記の各工程が終了した時点で「工事中の検査」を行う。

- イ. 躯体の欠陥部の処理
- ロ. 中塗り材の塗布

②施工者は、検査で不良箇所があった場合速やかに適切な対処を行い、その結果を監督者に報告し、承諾までの高所に放置しない。

2. 完了検査

①施工者は、施工完了後監督者の立会いの下に完了検査を行う。

②施工者は、完了検査において指摘箇所があった場合は速やかに対処し、その結果を監督者に報告し、承諾をえることとする。

X. 補追

安全管理項目

1) 管理・整理

①材料の保管・・・直射日光、降雨などを避けることのできる一定の保管場所を確保し、使用材料を保管する。

②湿気等を防ぐため、囲い板かシートで覆いをする。

③冬季の保管に注意し、0℃以下の場所に置かない。

④作業場所・・・作業後には、必ず洗剤を使用して手洗いをを行う。
に努める。

2) 墜落事故・落下物の防止

①足場の点検・・・毎日の始業前に作業足場の柵止め、固定金具、足場板の確認を行う。

②高所作業での安全索縄の使用を励行する。

③工具等の落下・・・重量のある物体は無論の事ハンマー、スパナ等の工具は足場板上な

3) 火気管理

①火気厳禁の表示・・・材料保管場所、作業場所には「火気使用厳禁」表示し、必要に応じてロープによる規制を行う。

②喫煙場所・・・指定場所を設置し、指定場所以外での喫煙は禁止する。

③電気配線、電動工具のスパーク防止

④溶接作業の規制

4) 作業の安全

①照明の確保・・・暗所での作業では、十分な照明を確保できるように適切な照明器具を設置する。

②換気設備・・・作業場内の換気には、作業環境の保全及び、安全確保のため適切な換気設備を設置する。

③安全保護具の使用励行

④清潔さ・・・作業者は毎回清潔な物を着用する。

5) その他、本作業場での安全管理規定はこれを遵守する。